

共に生きるための倫理

監修・講師 高橋勝也

名古屋経済大学 法学部 准教授

学習のねらい

私たち一人ひとり、他者と協働しながら社会に参画して生きていきますが、社会には解決の容易ではない課題が多く存在しています。課題の解決をどのように判断すべきかの手がかりは、青年期にある高校生には必要でしょう。自分も他者も共に納得できる解決方法を見いだすことのできる考え方を習得し、活用しようとする姿勢が大切です。さまざまな考え方を理解して、現代社会における課題を意欲的に探究していきましょう。

ポイント 1 功利主義と幸福の原理

社会における「正しさ」とは何でしょうか？「貧困に苦しむ人を助ける」という行為について、ある人は「社会全体の幸福を増やすから」と支持するかもしれないし、別の人は「貧困者のおかれた境遇を改善すること自体が義務だから」と支持するかもしれません。どちらにも「正しさ（あるいは「善さ」）があると言えますが、前者の考え方を「目的論」、後者を「義務論」と呼びます。そして、目的論は「正しさ」を判断する基準によって、「帰結主義」と「徳倫理学」に分かれます。

帰結主義によれば、行為の正しさは、その行為の結果生まれる善さや幸福によって決まります。そして、帰結主義のひとつに「功利主義」があります。哲学者ベンサムは、あらゆる人間は快楽と苦痛に支配されており、社会全体の快楽量を最大化し、苦痛量を最小化するのが正しい行為だと考えました。

一方、徳倫理学によると「正しさ」とは、快楽の量ではなく、人間としてよい生き方をすること、つまり徳をもつことだといいます。古代ギリシャの哲学者アリストテレスによると、徳には知恵や思慮などの知性的徳と、勇気や誇り、節制などの倫理的徳がある。このような徳を身につけ実践することが人間にとっての幸福であるとなりました。

探究活動のヒント

みなさんも「社会で起こっている問題について何が正しいのか？」をテーマに探究してみましょう。何が正しいかという結論は得られなくても、さまざまな立場や考え方を知ること、幅広いものの見方や考え方を身につけることができるはずです。

ポイント 2 義務論と公正の原理

私たちは誰もが幸福になりたいと願っています。そんな中、私たちの幸福のために、誰かが犠牲になることがあったら、それをよいことと言っていいのでしょうか。

社会全体を幸福にするためであっても、その手段として人を利用すべきではないという考え方を「義務論」とよびます。哲学者カントは、「自ら定めた義務を果たし、お互いを幸福のために利用せず、尊重し合うことが平和な社会を実現する」と説いたのです。

しかし、現代の社会では、カントが説くような義務を果たさず、功利主義が説くような幸福の追求ばかりする人がいるのが現実です。そうすると社会全体の幸福のために、一部の不公正(アンフェア)を許してしまうという問題が生まれます。このような問題に対し、政治哲学者ロールズは、人々が「公正さ」の感覚をもち、適正なルールのもとで協力し行動することで、最も不遇な立場にある人の幸福も実現できると説きました。

探究活動のヒント

ポイント②では、高校生たちが「みんながおいしいチョコレートを食べるために、外国の子どもたちを犠牲にしてよいか？」をテーマに探究活動をしました。子どもたちのカカオ採取の労働によって、チョコレートの原料が確保されているという実態は、果たして「公正」と言えるのでしょうか？

みなさんも「世界で起こっている対立」をテーマに探究してみましょう。人間社会における対立や争いは、いつでもどこでも起こりうると言えます。だからこそ、自分と異なる考え方を理解したり、他者と対話したりすることが大切です。お互いを尊重し合い、平和な社会を実現するために何ができるのか、探究してみませんか？

ポイント 3 環境倫理について考える

現在、地球温暖化などの地球環境問題が大きな課題になっています。人間の社会では、生活向上のため道路や高層ビルなど大規模開発を行うものの、開発地周辺の自然環境が悪化して、生活環境までに悪影響を及ぼすことがあります。

このとき生活の快適さによる幸福が上回っていれば、行為の結果として社会全体の幸福が増えていると見ることもでき、これは結果としての善さや幸福を重視する「功利主義」の考え方に立っていると言えます。一方、多くの人々の生活環境が向上したとしても、一部の住民に環境悪化の影響があったとしたら公正とは言えず、環境を守るのは義務であるとする「義務論」の考え方が主張されることがあります。

開発か、環境を守るのかについて結論は、簡単に見いだすことができませんが、あなたはどのように考えますか？

探究活動のヒント

みなさんも「環境問題をいかに解決するか？」をテーマに探究してみましょう。開発と環境保全は対立しやすい概念です。しかし現在では「持続可能な開発」という将来世代のために、健全な生活環境をつくっていくという理念があり、世界共通のキーワードにもなっています。みなさんも環境のために何ができるのか、探究してみましょう。



A series of horizontal dotted lines for writing, spanning the width of the page.

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。